

2025年度 全日本プロ選手権自転車競技大会記念競輪 全プロ記念競輪



新山 響平 青森・107期・SS
眞杉 匠 栃木・113期・SS
郡司 浩平 神奈川・99期・SS
松浦 悠士 広島・98期・S1
脇本 雄太 福井・94期・SS
古性 優作 大阪・100期・SS

2025年度全日本プロ選手権自転車競技大会記念競輪は、5月24、25日の2日間で行われる短期決戦。今年の舞台となるのは青森競輪場だ。初日の優秀競走3個レースで、3着までの9名が、最終日のスーパープロピストレーサー賞に勝ち上がるシステム。

2年続けて最優秀選手賞に輝いた古性優作は、今年も順調にきている。1月和歌山記念でVスタートを決めると、ウィナーズカップは②②①①着。初Vをオール連対で飾った。近畿勢は脇本雄太、寺崎浩平、窓場千加頼ら自力型がそろっているのも追い風だ。17、23年に続き3V目を達成しよう。もちろん、豪脚を誇る脇本、安定感を増している寺崎も有力なV候補。脇本は全日本選抜で優勝し、グランプリスラマーの称号を得ているし、寺崎はビッグレースで優等参戦。近畿勢での連独占は十分だろう。

北日本のエースは地元の新山響平。今年の滑り出しはあまり調子が上がらなかったが、3月に入るとエンジンがかかってきた。名古屋記念は二次予選、準決を逃げ切ると、ウィナーズカップでは①⑥②③着。初日特選をまくりで制すと、決勝は赤板から先頭に躍り出て粘り抜いた。主導権さえ握れば勝ち負けに持ち込める状態にある。菅田孝道もウィナーズカップの動きは悪くなかった。郡司浩平、岩本俊介のSS班に深谷知広と自力型がそろった

南関東勢も好勝負が期待できる。今年の郡司は快調なペースで飛ばしている、GⅢで2V、準V2回、ウィナーズカップでは決勝に進出した。だが、ウィナーズカップの決勝は、深谷、岩本を連れて先行した新山に襲い掛かったものの、3番手の寺崎に合わされて不発に終わっている。ここは雪辱を期しての参戦だ。

関東勢も駒数は豊富。SS班の眞杉匠、平原康多をはじめ、吉田拓矢、武藤龍生、坂井洋、佐々木悠葵、森田優弥と充実のラインナップ。中でも注目を集めるのは、ウィナーズカップ準Vの眞杉だ。古性の鮮やかなブロックに阻まれたものの、まくって出たスピードは素晴らしかった。好位置を占めて自力を出せば、首位に躍り出ても不思議ではない。吉田も出来はいい。今年は初戦の1月立川記念で落車し鎖骨を骨折。いきなり躓いたが、全日本選抜から復帰後は、ケガの影響をまったく感じさせない走りを披露している。チャンスが巡ってくればものにしよう。

この大会と相性がいいのは松浦悠士。20、21年を連覇していて、22年は3連覇は成らずも準V。最近の調子も問題ないので目が離せない。対照的にタッグを組む清水裕友は、一息不足の場所が続いている。昨年の覇者だが…。

地元ピックアップ

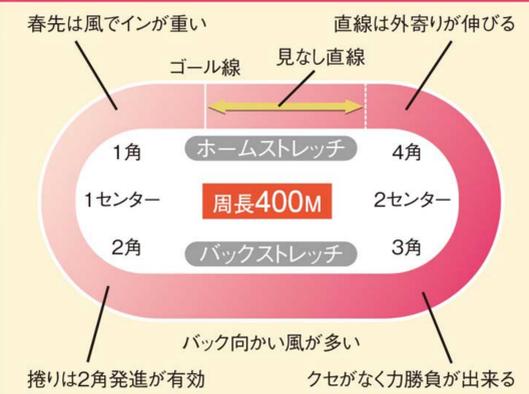
新山 響平

青森・107期・SS

スケールの大きな先行でバンク狭しと暴れまわっていて、輪界を代表する先行選手のひとりだ。ウィナーズカップの決勝は、果敢に逃げて僅差の3着に粘っていて、先行力を猛アピール。最近の調子も申し分ない。地元の当所は69周年大会を制して、一昨年の共同通信杯では、オール連対の準Vと気を吐いた。スーパープロピストレーサー賞初Vに闘志を燃やす。



青森競輪バンクデータ



22年6月に2センタースタンドを解体。風の強さは時間帯により変化するが、2センターから1センター方向に向かって吹くため、バックが向かい風でホームは追い風になることが多い。捲りは2コーナーの山おろしを使って仕掛けると伸びが増す。基本的に先行の番手有利となるが、イエローラインから外よりに強襲コースが存在する。

出場予定選手データ

	氏名	府県	期別	競走得点		氏名	府県	期別	競走得点		氏名	府県	期別	競走得点
S級S班	平原康多	埼玉	87期	111.77	S級1班	菅田孝道	宮城	91期	114.00	S級1班	佐々木豪	愛媛	109期	110.11
	岩本俊介	千葉	94期	116.65		神山拓弥	栃木	91期	108.82		松本貴治	愛媛	111期	112.40
	脇本雄太	福井	94期	116.19		宿口陽一	埼玉	91期	105.15		小林泰正	群馬	113期	112.39
	郡司浩平	神奈川	99期	118.18		大川龍二	広島	91期	103.67		森田優弥	埼玉	113期	112.17
	古性優作	大阪	100期	118.21		木村隆弘	徳島	91期	104.78		松井宏佑	神奈川	113期	113.08
	清水裕友	山口	105期	110.89		和田圭	宮城	92期	109.20		山田諒	岐阜	113期	109.41
	新山響平	青森	107期	114.21		木暮安田	群馬	92期	99.64		福永大智	大阪	113期	104.23
	眞杉匠	栃木	113期	116.05		三谷将太	奈良	92期	112.00		嘉永泰斗	熊本	113期	112.84
	犬伏湧也	徳島	119期	115.00		山田久徳	京都	93期	110.15		高橋晋也	福島	115期	106.31
	内藤宣彦	秋田	67期	106.10		根田空史	千葉	94期	106.38		坂井洋	栃木	115期	112.56
	香川雄介	香川	76期	108.13		小原太樹	神奈川	95期	109.82		佐々木悠葵	群馬	115期	113.44
	小倉竜二	徳島	77期	110.14		河端朋之	岡山	95期	109.97		藤井侑吾	愛知	115期	110.75
	佐藤慎太郎	福島	78期	111.11		守澤太志	秋田	96期	110.35		伊藤颯馬	伊藤	115期	109.62
	諸橋愛	新潟	79期	108.81		雨谷一樹	栃木	96期	111.26		菊池岳仁	長野	117期	106.44
	桑原大志	山口	80期	108.11		松谷秀幸	神奈川	96期	114.41		寺崎浩平	福井	117期	118.87
荒井崇博	長崎	82期	112.60	深谷知広	静岡	96期	116.70	青野将大	神奈川	117期	108.85			
佐々木雄一	福島	83期	103.62	岡崎智哉	大阪	96期	106.87	佐々木真也	神奈川	117期	109.90			
大槻寛徳	宮城	85期	109.32	久米良	徳島	96期	106.20	山口拳矢	岐阜	117期	113.57			
東口善朋	和歌山	85期	109.33	武藤龍生	埼玉	98期	113.16	町田太我	広島	117期	103.35			
中川誠一郎	熊本	85期	105.88	松浦悠士	広島	98期	116.50	石原颯	香川	117期	108.57			
岡村潤	静岡	86期	107.21	川口公太郎	岐阜	98期	106.16	伊藤旭	熊本	117期	110.23			
村上博幸	京都	86期	112.26	和田真久留	神奈川	99期	113.72	松岡辰泰	熊本	117期	107.67			
坂本健太郎	福岡	86期	105.88	恩田淳平	群馬	100期	107.82	松本秀之介	熊本	117期	105.77			
岩津裕介	岡山	87期	111.12	窓場千加頼	京都	100期	111.90	新村穰	神奈川	119期	104.00			
成田和也	福島	88期	111.65	神田紘輔	大阪	100期	105.73	後藤大輝	福岡	121期	107.28			
山崎芳仁	福島	88期	109.35	三谷竜生	奈良	101期	110.68	東矢圭吾	熊本	121期	106.54			
南修二	大阪	88期	113.00	山本伸一	奈良	101期	109.50	山賀雅仁	千葉	87期	105.35			
柏野智典	岡山	88期	108.90	谷口遼平	三重	103期	104.92	村田雅一	兵庫	90期	112.48			
渡部幸訓	福島	89期	111.05	川口聖二	岐阜	103期	103.80	椎木尾拓哉	和歌山	93期	109.14			
内藤秀久	神奈川	89期	103.55	石塚輪太郎	和歌山	105期	108.10	柿澤大貴	長野	97期	106.36			
橋本強	愛媛	89期	107.26	吉田拓矢	茨城	107期	116.07	久米康平	徳島	100期	103.94			
山田英明	佐賀	89期	113.36	隅田洋介	岡山	107期	107.77	金子幸央	栃木	101期	105.37			
浅井康太	三重	90期	113.06	取鳥雄吾	岡山	107期	111.23	太田竜馬	徳島	109期	102.18			
阿竹智史	徳島	90期	107.26	小川真太郎	徳島	107期	109.04	谷和也	大阪	115期	104.00			
小岩大介	大分	90期	111.07	末木浩二	山梨	109期	106.24	阪本和也	長崎	115期	103.26			
永澤剛	青森	91期	110.04	佐々木龍	神奈川	109期	108.12	村田祐樹	富山	121期	100.06			

推薦選手



永澤 剛 青森・91期・S1
 差し脚、位置取りとも
 にしっかりしていて、競走得点は110点台に乗せている。ここところ勝ち星も多く、調子も良好だ。

守澤 太志 秋田・96期・S1
 ウィナーズカップの二次予選は、菅田孝のまくりを差して白星スタート。全日本選抜の最終日に落車した不安を一掃した。

取鳥 雄吾 岡山・107期・S1
 ウィナーズカップでは二次予選で敗退も3日目、最終日を連勝で締め括った。最終日は中野慎、松井宏らの強豪を撃破。

佐々木 真也 神奈川・117期・S1
 当所は昨年の74周年大会で、記念初Vを達成したバンク。ウィナーズカップ23④4着の動きも力強く、状態もいい。

藤井 侑吾 愛知・115期・S1
 2場所続けて病欠したが、復帰戦のウィナーズカップでは2勝をマーク。最終日は犬伏湧の逃げを豪快なまくりで仕留めた。